

第11号

平成28年3月発行
2016.Mar.



剣脈



▲第50回全日本居合道大会 左から六段の部 末次 輝選手 七段の部 馬場清治選手 五段の部 井手烈太郎選手

公益社団法人

福岡県剣道連盟

〒810-0052 福岡市中央区大濠1丁目1番1号 福岡武道館内

TEL:092-712-1890/FAX:092-712-1891

平成二七年度 全日本居合道大会報告

監督 小田 信秋



五〇回という節目の大会を、福岡県剣道連盟主催にて二〇月一七日、アクシオン福岡で開催致しました。後援に福岡県・福岡市・NHKを含めた全放送局・各新聞社等、福岡全体で盛り上げていただいた大会になりました。

前日の審判会議、監督会議、また会場設営等の運営係員、当日の来場者らを含め、両日の参加人員は、延べ約千名になります。

試合は各段別に三会場に分かれて実施され、五・六・七段とも福岡勢の完全優勝で幕を閉じることが出来ました。閉幕後に全剣連の先生方、来賓の先生方より、「福岡剣連の纏まりは凄い。さすが福岡」と異口同音に絶賛の言葉を頂きました。また宮

川副会長からは、次年度に向けて「連覇」という課題を与えられていますので、継続して選手強化に努めて参ることを誓って、報告とさせていただきます。(16頁に詳報)

第五七回全国教職員 剣道大会報告

福岡県学校剣道連盟
理事長 岩熊 昌毅



平成二七年八月九日、京都市総合運動公園内ハンナリーズアリーナに於いて、第五七回全国教職員剣道大会が行われました。本県からは団体戦に、先鋒 西田諭史(志免中)、

次鋒 儀武純一(東福岡高)、中堅 大淵 量(久留米商業高)、副将 畑江秀彦(八女高)、大将 中野直(福工大城東高)が出場、個人戦に、高・大教委の部 在津元敏(田川高)、幼・義務教育の部 吉廣精人(城山中)、女子の部 島添未奈美(筑紫高)が出場しました。

表戦となり、ここでは副将畑江選手が見事な小手抜き面を決め、決勝進出を決めました。決勝戦は和歌山県との対戦。本数、勝者数タイでの大将戦となり、大将中野選手も勝利への執念を見せ戦いましたが、終盤相手大将に引き面を打たれ時間切れとなつてしまいました。

まず午前中に、女子個人戦、男子個人戦が行われ、女子の部で島添選手の引き小手が冴え、第三位に入賞(優秀選手)し、男子の部では吉廣選手が優勝者に惜敗したもののベスト八に入り、続く団体戦に勢いをつけてくれました。

午後からの団体戦では、まず二回戦で三重県と対戦。先鋒西田選手が勢いをつける二本勝ち、中堅大淵選手が勝負強く一本勝ちし勝利。三回戦福岡県戦では、途中次鋒儀武選手が左足を負傷するアクシデントがあり、以後の試合ができるか心配でしたが、気迫の試合で代表戦を制し、準々決勝に進められました。準々決勝は昨年度優勝の香川県との対戦で、大将戦でも決着がつかず、再度大将同士での代表戦となりました。大将中野選手は冷静な試合運びで面を決め三回戦に続き代表戦を制し、準決勝に進出。準決勝の相手は大分県で、緊迫した試合展開でまたもや代

国民体育大会剣道 少年男子入賞報告

福岡県剣道少年男子監督 権藤 和彦



本年度の国民体育大会を振り返ると、「選手諸君がよく頑張った」の一言に尽きる。選手は秋山・平岡(福大大濠)、塩屋・藤田啓(東福岡)、時田(筑紫台)、補員として興梠・平野(東福岡)の布陣である。各員総当りの九州ブロック予選では、長崎・熊本に連敗し、苦しい展開を余儀なくされるも、大将秋山の活躍もあり、三位で本国体への出場権を手にした。

私は、国体少年男子の監督を三期連続でさせていただいているが、本年度のチームは過去のチームと比較し、特出した選手はいないものの、一枚岩的団結力を有したチームであった。この力が結果に結びついたのでと確信している。



目次

派遣事業報告	1
脈動	3
各域からの報告	4
昇段・昇格・受賞	11
連合地区剣道連盟通信	13
杖道通信	15
居合道通信	16
未知志留辺	17
知っておきたい基礎知識	18
四・五段合格者	19
編集後記	

公益社団法人として三年目を迎え 更に充実と躍進

公益社団法人福岡県剣道連盟

専務理事 牧瀬 憲保



平成二十七年を顧みますと、国内外とも厳しい情勢は増々エスカレーターするばかり。特にイスラム過激派組織により多発するテロには、世界中の人々が震撼し、恐怖の存在を認識させられました。

国内におきましても、政治・経済の不安定や天災地変による被害を受ける等、国民の不安は募るばかりでした。

そのような中、剣道界においては、世界から五六ヶ国の参加を得、第一六回世界剣道選手権大会が若葉香る五月、日本武道館で盛大に開催され、我が日本は本県出身選手の大活躍もあり、男女とも個人戦・団体戦の完全優勝を成し遂げるといふ輝か

しい成果を残し、前途洋々の幕開けをしました。

また、国内大会における本県選手の出陣は、「玉童旗高校剣道大会」女子の部で福岡第一高等学校が優勝、「全国中学校剣道大会」で福岡市立玄洋中学校の妹尾舞香君が個人優勝、「全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会」で小学生・中学生の部とも優勝、「全日本実業団剣道大会」で西日本シティ銀行が優勝、「全日本居合道大会」では個人・団体とも優勝、また「全国教職員剣道大会」で準優勝、国民体育大会では成年女子・少年女子を欠きながらも総合七位入賞等雄県福岡の健闘はめざましいものでした。本年は警察官の奮起を期待し、「チーム福岡」として総合力の発揮をさせていただくことを期待しています。

次に、本県剣道連盟の運営においては、二七年度計画した各種事業も着実に実施する事が出来、所期の目的を十分に達成しました。特に「第一回女子剣道審判講習会」及び「審査委員候補者講習会」も好評で、次回開催に十分期待を待ちました。

福岡県における少年剣道の活動状況

福岡県剣道道場連盟

会長 池田 健二

福岡県の少年剣道は道場連盟に加入する七九団体のほか、私設道場公民館、社会体育クラブなどが活動しており、正確な団体数は把握できていないのが現状であります。各道場の指導者は単なる剣道の技術だけでなく、技術習得の学習活動を通じて剣道の理念と剣道修練の心構えに基づき、少年・少女の指導に当たっていることと思います。毎日防具をつけて厳しい稽古に汗を流した成果を発揮する場として、子ども達が目標としている主な大会とその状況についてご報告いたします。

○少年玉竜旗争奪剣道大会

(主催：西日本新聞社など)

平成二十七年で第五〇回目の開催となりました。道場連盟加盟の団体だけでなくオープン参加できる大会であり、毎年八月に九州を中心として全国各地から多数参加して行われ、少年少女剣士の大きな目標となっている大会です。小中学生の大会では珍しい勝ち抜き方式(抜き勝負)の団体戦であり、大会の時期が近づいてくると子ども達は五人抜き、一〇人抜きを目指して稽古に励

しかしながら、財政面においては依然として厳しい運営となり、財源確保のため事業経費の効率的支出に務める、各種講習会の有料化や登録料の見直しを図る等、今後検討すべき課題です。

さて、いよいよ本県剣道連盟も、公益社団法人となって三年目を迎えます。運営面も軌道に乗った感が出ておりますが、更に充実と躍進を図るため、二七年度の事情を踏まえ、二八年度は次のとおり重点目標を策定しました。

- 一 適正な財政基盤の確立
- ・ 事業活動費の効率的運用
- ・ 第六三回全日本東西対抗剣道大会(平成二十九年)の福岡開催に向けた資金対策
- ・ 会員の拡大検討
- 二 女子剣道の奨励
- ・ 女子審判員及び審判員の積極的登用
- ・ 女子を対象とした講習会の実施
- ・ 少年剣道の普及促進
- 三 中学校武道授業への積極的協力
- ・ 一貫指導体制充実事業剣道強化合宿の充実と継続
- ・ 道場連盟など少年指導者層との連携
- 四 競技力向上を目指した「チーム福岡」づくり

・ 警察・教職員・実業団各分野が全国トップを目指すための環境づくり

五 第六三回全日本東西対抗剣道大会(平成二十九年)の福岡開催に向けた諸準備

六 ホームページの充実
・ タイムリーな情報提供
・ モニターの活用

以上、目標達成のため邁進していく所存ですが、本年度重要課題として平成二十九年九月、本県が主管として二五年ぶりに開催する第六三回全日本東西対抗剣道大会に向けての事前準備です。開催県として成功して当然、失敗は許されない大事業ですが、県剣連一体となる事は勿論の事、各団体・機関・マスコミ関係等の協力を得て、大成功に終わらせると決心している次第です。

既に実行委員会も立ち上げ、予算面の対策と並行しながら、人材の選出、会場の確保、競技・式典・輸送・PR活動等々細部にわたり鋭意計画策定中です。どうか大会成功に向け、会員の皆様のご理解とご協力を切に願います。

最後になりましたが、みなさまの本年度におけるご健勝とご精武を祈念します。

みます。また毎回テレビ放映があることから、子ども達のこの大会への関心は非常に高いものとなっております。毎年福岡県の道場や中学校が上位に入賞する活躍をしています。平成二十七年の結果は次のとおりです。

《小学生の部》
優勝：今宿少年剣道部(三年ぶり九回目)
準優勝：如水館

《中学男子の部》
優勝：如水館(五年ぶり五回目)
準優勝：江藤道場栄心館
三位：若舞少年剣道部・末吉中学校《中学男子の部》
優勝：福岡十生館(初優勝)
準優勝：今宿少年剣道部
三位：高田中学校・池田道場

《全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会》
(主催：大阪市、大阪府剣道連盟)
全日本剣道連盟の後援により平成一八年から毎年、各都道府県剣道連盟から選出された、小学校の部(小学生五名)、中学校の部(中学生女子二名、男子三名)の団体戦で、それぞれ一チームが出場し日本一を決する大会です。福岡県においては毎年小中学生男女の優秀な選手を選考

して、八月、二月の福岡県剣道連盟主催の小中学生の剣道強化合宿を通じて剣道の技術の向上と出場選手チームワークを深めて大会に臨んでいます。福岡県は中学校の部において第一回、第三回大会で優勝、第五回と第六回大会で準優勝。小学校の部においては第二回大会で優勝という優秀な成績を残しています。平成二十七年九月二〇日(日)に大阪府の舞洲アリーナにおいて開催された第一〇回大会においても、福岡県内の道場・中学校などから選出された小中学生が出場し、小学生の部で優勝、また中学生の部においても優勝するという快挙を成し遂げました。

《全国道場対抗剣道大会》
(主催：全日本剣道道場連盟)
師弟同行の精神を主眼とし、チーム構成は、先鋒小学生、次鋒中学生、中堅三〇才未満、副将三〇才以上、大将四〇才以上で編成された団体戦で、道場の先輩・後輩・指導者が協力して臨むまさに指導者と少年・少女が一体となる大会であり、各道場間の交流の場となっています。全国道場少年剣道選手権大会は、その年の小学生男女、中学生男女の一位を決定する大会で、各都道府県の予選を勝ち抜いた選手が参加して行われ

ます。開催地は毎年持ち回りであり、地元での活性化を図っています。今回は平成二十七年一〇月一日に栃木県立東南体育館において開催され、全国道場対抗剣道大会では今宿少年剣道部が第三位入賞、全国道場少年剣道選手権大会小学生女子の部において松永樹音選手(福岡一信館)が優勝、中学生女子の部においては柿元冨月選手(如水館)が準優勝、同部門において妹尾舞香選手(今宿少年剣道部)が敢闘賞、中学生男子の部においては中山寛大選手(福岡十生館)が敢闘賞に入賞する好成績を収めました。

《全国道場少年剣道大会》
(主催：全日本剣道道場連盟)
毎年夏に日本武道館において開催される大会です。この大会は「少年少女剣士の甲子園」とも言われ、全国の少年、少女達が憧れる大会となっています。文部科学大臣を始め多数の来賓のもと、応援も含めて入場者一万人を超えます。
平成二十七年七月二八日から三〇日の三日間にわたって開催された第五〇回記念大会では、小学生団体の部において如水館、福岡一信館、今宿少年剣道部の三道場が敢闘賞に入賞、中学生団体の部においては福岡十生館が準優勝、須恵剣友会と福岡

各域からの報告 - 少年剣道

如水館が敢闘賞に入賞する好成績を収めました。

また五〇回記念部門別個人戦においては小学生女子の部で松永樹音選手(福岡一信館)が優勝、中学生女子の部においては妹尾舞香選手(今宿少年剣道部)が優勝、柿元冨月選手(如水館)が第三位、小学生男子の部においては宮本颯太選手(高田道場)が準優勝となる好成績を収めました。

次年度も福岡県の選手が益々活躍することを期待しております。

中体連大会報告

福岡県中体連剣道専門委員長

岡垣中学校教諭 今川 嘉津磨

〇県総体剣道大会

中学日本一そして福岡県チャンピオンの座を求め、行橋市民体育館で繰り広げられた熱戦。一世二代の晴れ舞台への出場権をかけた県大会は七月三二日から二日間、団体戦と個人戦で行われました。県内各地から厳しい予選を勝ち抜いた精鋭の中学生による戦いは、大勢の観客・保護者を巻き込んだ、激しく感動を呼ぶ戦いの連続でした。

成績は次のとおりです。

男子団体

優勝 須恵中

準優勝 春日野中
三位 黒木中、高田中
ベスト八 飯塚第二中、岡垣中、宮西四中、那珂川中

女子団体

優勝 那珂川北中
準優勝 前原西中
三位 城山中、大原中
ベスト八 十文字中、和臼中、黒木中、飯塚日新館中

男子個人

優勝 久保田陽紀(高田中)
準優勝 黒川 雄大(須恵中)
三位 井上亮太郎(城西中)
桁山 翔稀(黒木中)

女子個人

優勝 妹尾 舞香(玄洋中)
準優勝 柿元 冨月(那珂川北中)
三位 林田 千夏(甘木中)
小田 鈴珠(玄嶺北中)

〇九州中学校剣道大会

八月七日〜九日

人吉スポーツパレス

男子団体ベスト八 須恵中

女子団体 準優勝 那珂川北中

女子個人 優勝 柿元 冨月

準優勝 妹尾 舞香

〇全国中学校剣道大会

八月二日〜二四日

秋田県立武道館

女子個人優勝 妹尾 舞香

準優勝 柿元 冨月

〇県新人剣道大会

一・二年生による新人大会は一月二日に福岡市九電記念体育館で開催されました。県内予選を勝ち抜いた男女団体各二四校で争われました。新人大会にふさわしく、さわやかで浚刺とした試合が展開されました。

成績は次のとおりです。

男子団体

優勝 老司中
準優勝 玄洋中
三位 三国中
筑紫野南中

ベスト八

黒木中、泉中、前原東中、北野中

女子団体

優勝 那珂川北中
準優勝 二日市中
三位 松崎中、前原西中

ベスト八

田隈中、飯塚日新館中、吉井中、和臼中

上位四校は、一月に熊本県で行われる白龍旗大会、三月に佐賀県で行われる神埼市長旗大会に出場します。

最後になりましたが、中体連の先生活方の皆様の熱意と絶大なるご尽力に感謝申し上げます。

の研究協議が実施されました。受講者には、角正武講師(福岡教育大学名誉教授)と島居講師が担当する「外部指導者との連携・組織作りについて」、藤田弘美講師(福岡県立育徳館中学校教頭)と筆者が担当する「学習指導・評価について」、中山講師と大森講師が担当する「これだけは伝えたい!三分で行う剣道講話」のうちから一つを選択していただき、これまでの講習内容に関しての質問、意見を含めた協議を行いました。

受講者へのアンケート調査からは、「剣道初心者である中学校の先生方にとって、剣道は何がどうなれば一本になるのか、それを体育の授業の中でどう解釈し、指導していくか非常に参考になった」「怖い、痛い、といった要素を取り除き、楽しく実践できる方法を学ぶことができ」といった感想が得られました。剣道経験者の先生方からは、「剣道を学校体育の授業として改めて考え直す良い機会となった」「専門であったも、改めて『なるほど』『こんな方法や工夫もあるのか』とたくさん学べて良かった」といった感想が得られました。剣道連盟会員の先生方からは、「外部指導者としての在り方を実践で学べた」「子ども達

の評価の仕方や褒め方などよくわかった」との感想が寄せられました。全体的に、例年以上に肯定的な意見が寄せられました。その一方、一単位時間の流れに沿った演習の在り方や、「剣道具を用いない場合」と「剣道具を用いる場合」の演習を二つとも受講できるようにスケジュールの組み方、実際に中学生を対象とした指導の実演から生徒の生の声や感想が得られる内容を、といった要望が挙げられました。今年度の内容及びアンケート調査の結果をさらに詳細に分析し、教員・会員双方にとってより役に立つ講習会となるよう内容の充実を図っていきたいと思います。

高体連活動報告

高体連剣道専門委員長

明善高等学校教諭 橋本 信之

おかげさまで今年も福岡県の高校生の活躍は素晴らしいものがありました。二月の九州選抜では団体戦の優勝は逃したものの、男子団体では福大大濠が、女子団体では福岡第一が準優勝。また女子個人戦でベスト四に三人が入るなど昨年同様幸先良いスタートをきりました。そして三月の全国選抜大会では女子団体で中村学園女子が三年ぶりの全国制覇を

平成二七年度

剣道授業講習会について

福岡教育大学 本多 壮太郎
八月三日(月)に、福岡県立スポーツ科学情報センター(アクシオン福岡)において、福岡県教育委員会との共催により、剣道を専門としない中学校保健体育科教員、授業支援の意向を持つ地域の剣道高段者を対象に、中学校での剣道の授業づくりのための講習会を実施しました。当日は、剣道を専門としない中学校保健体育科教員四九名と、福岡県剣道連盟所属会員二名の参加がありました。

講習会は午前中に、島居奈緒美講師(福岡県体育研究所指導主事)による「剣道の授業づくりにあたって」の講義と、中山浩二講師(福岡市立城南中学校教諭)と大森靖雄講師(北九州市立恵永中学校教諭)による「剣道授業の導入について」の演習が行われました。午後からは、筆者(福岡教育大学保健体育講座准教授)による「剣道具を用いない場合の授業展開」と島居奈緒美講師による「剣道具を用いる場合の授業展開」の二つの演習が準備され、受講者はそれぞれの興味に従い、どちらかを選択するかたちで行われました。演習の後には、三つのグループに分かれて

九州選抜高等学校剣道大会

平成二七年二月六日〜八日

宮崎市総合体育館

男子団体

準優勝 福大大濠

女子団体

準優勝 福岡第一

ベスト八

中村学園女子

男子個人

三位 吉武千勝(筑紫台)

ベスト八

山田晃大(八幡南)

女子個人

準優勝 合瀬未悠(中村学園女子)

三位

佐藤友美(福岡)

ベスト八

長友夢希乃(筑紫台)

女子団体

優勝 中村学園女子

(三年ぶり三回目の優勝)

男子団体

ベスト八 福大大濠

全九州高等学校剣道競技大会

平成二七年七月一日〜二二日

菊池市総合体育館

男子団体

三位 東福岡

ベスト八

福大大濠

女子団体

優勝 中村学園女子

準優勝 福岡第一
女子個人
優勝 長友夢希乃(筑紫台)

三位 久徳真子(中村学園女子)
全国高等学校剣道大会
平成二十七年八月三日～六日
和歌山ビッグホエール
女子団体
三位 中村学園女子
女子個人
ベスト八 長友夢希乃(筑紫台)

ベスト八 東福岡
男子個人
ベスト八 秋山健太(福大深)

国民体育大会
平成二十七年一〇月三日～一〇月五日
那智勝浦町体育文化会館
少年男子 三位

九州学生剣道連盟の

活動報告

福岡教育大学 本多 壮太郎
九州学生剣道連盟は、九州地区(沖縄を含む)の各大学剣道部を以って組織されています。また、全日本学生剣道連盟に加盟し、学生間における剣道の奨励発展と加盟校相互の連絡及び親睦融和を図り、日本剣道の発展に寄与することを目的としています。以下では、九州学生剣道連盟

が主催した大会を中心に大会結果の一部を紹介致します。

平成二十七年の大会は、五月九日(土)、粕屋町総合体育館で開催された第六二回全九州学生剣道選手権大会・第四八回全九州女子学生剣道選手権大会で幕を開けました。上位入賞者は以下の通りです。

男子
優勝 望月脩平(鹿屋体育大学)
準優勝 持原大希(鹿屋体育大学)
第三位 水凌徹哉(鹿屋体育大学)
草野龍二郎(鹿屋体育大学)

女子
優勝 信田茉莉奈(福岡教育大学)
準優勝 永留未来(鹿屋体育大学)
第三位 伊藤 まりの(福岡大学)
山崎 瑠美(鹿屋体育大学)

九州大会の二週間後の五月三日(土)・二四日(日)には、福岡市民体育館に於いて第六〇回記念西日本学生剣道大会・第三〇回記念西日本

女子学生剣道大会が開催されました。出場校は、男子一一校、女子九九校を数え、記念大会に相応しく二日間にわたり熱戦が繰り広げられました。

同志社大学
女子
優勝 福岡教育大学
準優勝 大阪体育大学
第三位 佐賀大学
龍谷大学

九月一二日(土)には、粕屋町総合体育館に於いて、全日本学生剣道優勝大会、全日本女子学生剣道優勝大会への出場権を懸け、第六二回全九州学生剣道大会・第三八回全九州女子学生剣道大会が開催されました。

男子
優勝 鹿屋体育大学
準優勝 九州共立大学
第三位 別府大学
九州国際大学

女子
優勝 鹿屋体育大学
準優勝 福岡教育大学
第三位 福岡大学
別府大学

尚、平成二十七年一月八日(日)に愛知県春日井市総合体育館に於いて開催された第三四回全日本女子学生剣道優勝大会では、鹿屋体育大学が見事優勝の栄冠を勝ち取りました。

来年度は今年度の成績を上回るとともに、九州学生剣道連盟の目的を

果たしていくべく活動をさらに充実させていきたいと思えます。

福岡県警察剣道の活動状況

福岡県警察本部 教養課
剣道師範 清田 高浩

はじめに、日頃から福岡県警察剣道特別訓練員のためにご指導、ご支援をいただいている諸先生方に対し感謝するとともに、厚くお礼を申し上げます。

さて、今年も平成二十七年中における福岡県警察剣道特別訓練員の活動状況等につきまして報告をさせていただきます。

平成二十七年も引き続き、暴力団対策に伴う嚴重警戒等、本心に厳しい勤務態勢が続いている中、剣道特練員も福岡県警察第一機動隊の一員として過酷な勤務につきながら、その合間を縫って剣道の訓練に励んでまいりました。

言うまでもなく我々は、「県民の安全・安心の確保」を実現するために強くて優しい警察官を目指し、日夜、「克己心」を胸に粉骨砕身・満身創痍の中で、常に自分自身と格闘をしながら血と汗と涙を流し、厳しい訓練に励んでいるところであります。

そのような彼等の平成二十七年中に

おける各種試合結果の報告をさせていただきます。

九州管区警察剣道大会(団体) 第六位

全国警察剣道大会(団体) 一部予選リーグ三位(一部降格)

全国警察剣道選手権大会 森、村方、小倉、國友出場

全日本都道府県対抗剣道大会 國友出場

全日本選手権大会 出場者なし

西日本各県対抗剣道大会 予選一位

原忠、本多、松岡、原登、富松、國友、藤本出場

国民体育大会 原忠、本多、原登、國友出場

全日本東西対抗剣道大会 清田出場

という誠に不本意な結果となりました。年明け後、最初の公式戦となる国体の県予選では、県警が各年齢層で上位を占めるという好成績で平成二十七年をスタートした訳であります。その後前述の通り、九州管区大会六位、全日本予選惨敗、全国警察大会一部降格、その他の大会でも好成績を残すことができず、山が崩れるような勢いで敗戦を経験し、屈辱を味わう一年となりました。当然

のことではありますが、一番悔しい思いをしているのは選手本人たちであり、既に各人が自覚のもとに朝稽古や出稽古等に参加するなど、目標を実現するために、また屈辱を晴らすべく全力で稽古に取り組んでいます。

今年「具体的に動く」と「メンタル面の強化」、この二つを課題として取り組み、強化を図っていく覚悟です。一つ目の「具体的に動く」につきましても、目標に向かって全力で頑張るといった漠然としたものではなく、各人が具体的な訓練計画を立て、それに基づいて実施した結果のチェックや効果の確認をして、補強や修正を行うなど自主自立を意識して具体的な行動を起こすということでもあります。二つ目の「メンタル面の強化」については、とにかく強い稽古を行い、これに耐え抜く強い精神力を養い、自信をつけていくということと、より多くの試合を経験して度胸をつけ、また地稽古において色々な場面を想定し、気を抜くことなく常に緊張感を維持させた苦しく厳しい稽古に励むことによつて、メンタル面を強化していきたいと思っております。

今年度は、背水の陣を敷き、指導者以下、背水の陣を敷き、

福岡少年院における剣道指導

福岡少年院勤務 井上 弘一

福岡少年院では、少年の矯正教育の一環として、平成一六年から少年に対して剣道指導を行ってきました。剣道指導開始当初、指導計画を立てるときには、いろいろな意味で血気盛んな少年院の少年に剣道を行わせるために、剣道の運動的な側面よりも教育的な側面を活かすことが大切だと考え準備したことを覚えております。

その後、少年院の外部の方で、少年に剣道を指導していただける講師を探すことになりました。当時福岡教育大学の教授であり、私の大学の恩師である範十八段の角正武先生に、どなたかを紹介していただけないでしょうかとお願いしたところ、角先生御自身に来ていただけることとなり、大変嬉しくありがたく感じたことを覚えております。

自分自身は、少年達に剣道指導を行うに当たっては、剣道の理念である「人間形成の道」というところに

重点を置いて指導を行ってきました。角先生からも、稽古の始めと終わりに礼を行う時には「私も真剣に打っていきますからあなたも真剣にお願いします」「あなたが真剣に稽古してくれたおかげで良い稽古になりました」という気持ちを入れて行うこと、互いに真剣に稽古をすることが互いのためになること、そして真剣に物事に取り組むことの重要性などを指導していただいております。剣道の稽古を通して、互いの人格を認め合う、相手を尊重するということの大切さ、良さを少年に伝えていただいているところです。

当時行っていた少年同士の錬成大会では、少年院に入る前にはさんざん見栄を張っていた少年たちが、部位外れをしたたかに打たれながらも、相手に対して感情的になることなく、快く相手を許して試合を継続したり、大勢の他少年が見ている前で試合に負けたとしても、潔くその結果を受け入れるといった態度が見られました。その姿からは、剣道の場面において寛容や受容の心を持てたことがうかがえ、剣道がいかに少年たちの更生に向けた教育に役立っているかを実感させられました。

現在、福岡少年院においては、角先生に、低年齢で精神的にも未熟で

教育の難しい少年に対する教育の一助として、継続して効果的な指導をいただいているところです。
今後、指導の一層の充実のために、私も日々研鑽し、剣道の素晴らしさを少年に伝えていきたいと考えています。

消防剣道の活動状況について

八女消防本部剣道部 木下 安展

近年の全国の災害状況を顧みますと、火山の噴火災害や集中豪雨による土砂災害、大地震など、全国各地から活動部隊の派遣が必要な自然災害が毎年のように発生し、全国の消防職員が連携して、昼夜を問わず消防活動を行う機会が多くあります。

また剣道では、「心技体」が重んじられていますが、厳しい災害現場へ向かう我々の消防業務においては剣道で培った、強靱な体力と精神力をもって、消防技術を向上させることは必要不可欠の要素です。

以上のことから、毎年開催されている消防職員剣道大会の県大会、九州大会及び二年に一度開催される全国大会は、一人でも多くの消防職員が顔を合わせ、互いに強固な信頼関係を築き深める絶好の機会となっています。

本年度、県大会には一五消防本部

が参加し、飯塚地区消防本部が見事優勝を収めました。本年度を以って退職される長野消防長が自ら試合に出場されるなど消防本部が一致団結して闘う姿は圧巻でした。

続く九州大会では、九州各県より三六消防本部が参加し、県大会で惜しくも準優勝だった福岡市消防局が優勝し、九州の頂点に立ちました。

さらに、本年度の大会を以って、五回目を節目を迎える全国大会では、七六チームが参加し、全国各地から消防剣道愛好者が集いました。この大会においては県大会・九州大会と苦汁をなめた八女消防本部が奮闘し、準決勝では五連覇がかかる東京消防庁Aを撃破、決勝に進みましたが、決勝では惜しくも東京消防庁Dに敗れたものの、見事準優勝を果たし、福岡市消防局もベスト八というすばらしい成績を収めることができました。

数年前までは消防の剣道人口が伸び悩み、消防剣道が低迷していましたが、ここ数年、若い職員の剣道人口が増えることで、再び活気が戻ってきました。このような若い職員の方も加わり、現在、多くの消防職員が少年剣道の指導に携わっています。さらに県内各地の少年剣道の錬成会を年に数回定期的に行い、次の

の子ども達が、益々活躍することを期待しながら、より一層尽力してまいります。

九州実業団の活動状況について

九州実業団剣道連盟

事務局長 平岡 輝樹

平成二十七年の主要な大会に於ける選手の活躍を時系列でご報告します。

四月二五日に大阪市中央体育館で開催された「第六三回全日本都道府県対抗剣道優勝大会」では、九電工の芳野哲志選手が福岡県チームの五将として出場し、チームは三回戦で大阪府に本数差で惜しくも敗退しました。

七月一八日に日本武道館で開催された「第七回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会」では、西日本シティ銀行の宮本麻由弥選手が福岡県チームの中堅として出場し、チームの準々決勝進出に貢献した。

九月二二日に日本武道館で開催された「第五八回全日本実業団剣道大会」では、全国から過去最多の三五九チームが参加、混戦が繰り広げられる中、「西日本シティ銀行(本店)」が決勝戦に進出し、「伊田テク

世代を担う子ども達の育成に、力を入れていきます。

今後は消防剣道に留まらず、様々な大会で活躍できるように、お互いが切磋琢磨し、さらに稽古に精進するとともに、現在指導している少年剣道



九州大会優勝 福岡市消防局

家族の絆 生涯剣道を通して

遠賀郡中間市剣道連盟会長 産業医科大学剣道部監督 教士七段 久木原 博幸



生涯学習 生涯体育(剣道)は、年齢、性別にかかわらずでき、安全、健康に留意し、親しめる基礎的な態度を作れば、魅力あるものとして継続できるのが利点です。

私が剣道をはじめたのは、昭和三二年。剣道部があった中学への入学時からです。

その後高校を卒業して、福岡県警に奉職し、定年までの四二年間、毎年実施される県下各署柔剣道大会に選手として永年出場(四回)、警察署の剣道指導員歴三〇年があります。結婚後一人の息子に恵まれ、子ども

も達に小学校一年生から剣道を始めさせて、その成長を夫婦で応援しながら、共に修行しました。

特に家族の思い出は、小学生から大学生まで、同じチームで切磋琢磨してきた息子たちが、社会人になり別々の会社に就職、平成二二年全日本実業団剣道大会(日本武道館)準決勝副将戦で、兄弟対決をしたことです。その時の試合を妻と複雑な心境で応援したことは今でも忘れられません。

結果は兄が一本勝ち、その後決勝戦を制し、JR東日本リテールネット(旧キオスク)が初優勝、その二年後の大会では弟の東洋水産チームが優勝し、私達家族にとっては、懐かしい思い出として残っています。

平成二十七年、兄弟とも剣道七段審査に合格、親子の絆もよりいっそう深まりました。

子ども達が帰福した折は、剣道談義を酒のつまみに、花を咲かせています。

今後の生涯剣道への思いとして、健康第一で「継続は力なり」を実践し、八段昇段に「挑戦」しながら生涯にわたり、人間形成の道を進みたいと思っています。



県大会優勝 飯塚地区消防本部



全国大会準優勝 八女消防本部

剣道有功賞受賞にあたり

瀬戸 義直



剣道を始めたのは、中学二年生の頃と記憶しております。父親(瀬戸金蔵)小倉剣友会の創始者であり、初代会長)に連れられ、旧国鉄金田工場(当道場には、十段中野宗助先生が月に二回程来場の上、稽古を指導していた)へ出向いたのが始まりです。

当時は占領下のGHQによる剣道禁止令の解除のころでありました。父親をはじめ、諸先生方による剣道復活に並々ならぬ努力の最中でありました。

私はその後、県立小倉高等学校関西大学へと進み、共に剣道部に所属、日々研鑽を積み、視野を広げ、卒業後、地元小倉にもどり、父親の事業を継ぎながら、事業、剣道に鋭意取り組んで参りました。

小倉剣道連盟では、少年剣道の育成も担当し、おごらず、気負わず、ひるまず、決して猛々しからずを

モットーに、自らも日々精進を重ね、昭和三十七年よりは、国立九州工業大学の指導者に迎えられ、学生の指導育成に当たることとなりました。

私の理想信念である、剣道理念に基づく指導のもと、多くの学生を送り出し、卒業生が世界で日本剣道の発展に寄与していることは喜ばしいかぎりです。更に、多くの若者(高校生)をも育成すべく、九州工業大学剣道部OB達が主体となりまして、「明専杯」(九州工業大学の前身の明治専門学校より命名)なる大会を設け、地域の選抜された高等学校生徒による大会は回を重ねる毎に益々盛会を極め、今日迄、継続致しております。

かたや、剣道連盟の方は所属の小倉剣道連盟に於いて、事務局長、理事長、会長として、地域剣道の発展につとめ、北九州連合地区、福岡県剣道連盟の役員も勤めさせていたいております。

先程もふれましたが、私は終始一貫して剣道理念に基づくところの発展を望み、日々精進をしておるところです。早いもので、私も、高齢者となり気力とは反対に体の動きはにぶりましたが、人の成熟はだんだんおとろえてからなし得るものと思得、生涯剣道の夢を实らせるべく努めおるところです。

このたび、私ごときに、「剣道有功賞」を賜り誠に有難く恐縮に存じます。私を支えていただきました

諸先生、諸先輩、剣友、福岡県剣道連盟、北九州連合地区、小倉剣道連盟の方々のご配慮に深謝いたします。

剣道有功賞をいただき

田中 和夫



このたび全日本剣道連盟有功賞とお話をいただき、私ごときがと感じ入りましたが、筑後連合地区、福岡県剣道連盟の推挙もあり、ありがたくお受けすることにしました。剣道は祖父や父もやっていたこともあり、昭和二〇年、小学三年生の時、奥田博一先生宅にて田主丸剣友社に入門しました。戦後中断もありましたが、昭和三五年、田主丸剣友社剣道復活時、奥田博一先生を主として先生方青少年多数の参加で、八月の戦後第一回の暑中稽古に参加し、皆勤賞を受賞。初めていただいた賞状で、今でも私の宝物として大事にしています。

県立筑水高等学校に昭和二九年に入学。高体連携(しない)競技が出来

入部しました。翌三〇年に福岡県高等学校体育連盟剣道復活。剣道顧問の佐藤敏之先生に厳しい稽古をつけていただき、卒業後も親しく指導いただき感謝いたしております。卒業と同時に家業の農業を継ぎ、農作業を終えて、夜八時〜一〇時頃まで毎日稽古しました。諸先生方の教えを乞いながら、剣友として少年剣士達と練習したものです。

昭和三四年、田主丸チームで県下郡市体育大会剣道の部に浮羽郡代表で優勝。県代表で全国青年大会に出場し、優勝することが出来ました。帰省早々、病氣療養中の奥田博一先生を選手二人で訪ね、優勝報告すると、たいへん喜んで下さいました。その後は今村武助先生を中心として、先生方一般と少年剣士も益々盛会に稽古しました。

その合間に久留米にも稽古に出て、多くの高段者の先生方に稽古をつけていただきました。特に緒方寅男先生には何回もお願ひし、自家用三輪車でふらふらしながら帰宅したものです。

昭和四〇年代半ば、現筑陽会に入門し先生方からよく扱かれたものです。現在お元氣なのは筑後連合地区会長の河口節喜先生お一人にられました。

平成一〇年、第三回剣道中央講習会に参加し、剣道の本道は何ぞやを学ばせていただいたのが六〇才の時です。

新谷 學

剣道六段(八月二〇日)

- 伊藤基洋 馬田英隆 岸上雄一郎
手島由裕 安河内隆 山下幸太郎
友田秀志 土井清人 伊豆丸洋一
中村純也 中村優介 山内正太郎
小野公次 深堀博伸 檜崎龍太郎
山口康宏 湯口博史 吉村貴徳
橋口佳史 福田靖典 中野敬三
毛利幸路 和田孝二 河鍋英治
森山恵子 野田博昭 徳永隆浩
清原知彦 高木直哉 中村裕介
大山研一 上村耕三 土田清二
稲留政章 板野幸久 田中悦治
高取清史 永瀬幹夫 久保博子
松田 司 江藤 満 志岐峰生
高濱壽生 佐伯 弘 林 耕次
櫻井英夫 小野明男 池内壽孝
森 繁樹 今村達蔵 弘法義一郎

居合道六段(十一月七日)

- 毛利秀幸 末山幸一

居合道七段(十一月七日)

- 上田武尚

剣道七段(十一月四日)

- 稲田博章 河原雅治 荒巻正人
中知豊樹 鐘江秀樹 田中雅士
鶴 功 中知二男 佐々木康治

佐々木良幸

剣道六段(十一月五日)

- 窪田健吾 加藤 真 小石 浩
横川佳子 吉廣精人 一ノ瀬芳文
荒木 実 中村友彦 元永健介
武藤泰彦 岩見 聡

剣道六段(十一月四日)

- 丸山健太郎 高田健一 大島佳希

剣道七段(十一月五日)

- 大賀 昇 在津元敬

錬士・教士昇格者

剣道錬士(十一月五日)

- 谷口浩二 栗原 啓 兼田圭介
折居将太 北川 亨 永見賢太郎
小林洋介 高野裕章 會所直樹
西川隆一 松添由幸 野見山宗徳
伏谷康記 横田國廣 和田太郎
安川裕之 西 司 富山繁幸
内海太郎 石井俊介 西田 強
成富英雄 小芦啓司 築地浩一郎
原田英則 浜辺隆司 中山和親
上田哲也 光益貴歩 今村洋平
鳥飼行雄 佐藤久男 横地日出男
水上智博 小池哲史 磯部真治
黒木正晴 佐藤宏一 安河内裕治
藤島浩史 城戸議浩 香野裕治

居合道錬士(十一月五日)

- 横田靖子 廣房憲治 松坂徳昌
池田 勉

杖道錬士(十一月五日)

- 篠原鐵郎

平成一八年、我が清和園ブドウ園の中に新築農舎の二階を剣道場にし、稽古会(毎月第二水曜日)は、今年で一〇年目を迎えます。角正武先生ご遠方よりご指導に来ていただき、ありがとうございます。

昇段・昇格

六段以上合格者

居合道六段(七月一〇日)

- 村瀬 守

杖道七段(八月七日)

- 越智康久

剣道七段(八月二九日)

- 秋山大輔 姉川佳彰 梅津裕一郎
松延博人 木附大策 相良昌伸
豊嶋哲也 藤 憲治 西村善和
出利葉操 富田昭博 小野原広義
古賀則行 蒲池達弥 高松浩文
山本秀一 丸山昌彦 末松二十史
倉員武夫 國松 昇 平田宗充

筑紫剣道連盟地区内の大会の紹介

筑紫剣道連盟
理事長 飯笹 嘉文

筑紫剣連の紹介

当剣連は昭和三五年の創立、地区内四市一町の各剣連、中体連と高体連、陸・空の自衛隊、官公庁の団体で構成。県会員二八〇名、少年剣道は三二団体が活動。

今回は四市一町の各剣連が主催し、参加する大会（二七年度分）を紹介いたします。

伝統と特色のある七大会

（文中、〇〇市は〇〇市剣連・主催の意、〇〇剣道大会の「剣道」は省略）
四月、大宰府市の「大宰府大会（二六・二七回目）を二本勝負法で実施。
六月、筑紫の「中学校（二〇回目）・高校（三〇回目）大会。目的は、①玉童旗大会優勝、②剣道部員の激励。中学三校・高校九校が参加し、勝ち抜き法（中学は勝者数法）で実施。同月、春日市の「剣聖旗争奪少年大会（五一回目）開催。

九月、筑紫の「剣道祭」（剣道祭として一六回目）。小学生低学年から中・高校、一般の一二名の選手構成による市町対抗戦と、二〇歳代から一〇歳刻みの年齢別選手権戦を実施。

九月、筑紫野市の「二日市八幡宮秋季例大祭奉納大会（六九回目）」昭和一〇年に始まり戦後の剣道禁止による中断を経て、現在も境内での野試合で実施。

剣道連盟の顧問であり、飯塚市の飯塚修道館を中心に指導されました。多くの後輩や門下生が剣道の技術だけでなく、その精神を受け継ぎ広く筑豊地区の剣道の基礎となりました。

両先生の剣道への思いと、剣道復興への努力に感謝すると共に謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

小倉の武蔵・小次郎祭り 北九州連合地区

理事長 矢野 直行

生誕の地・岡山や終焉の地・熊本など毎年各地で武蔵祭りが催されていますが、小倉剣道連盟でも、春と秋の年二回、武蔵・小次郎ゆかりの行事を開催しています。

一つは昭和二八年に始まった熊本市剣道連盟との対抗親善試合で、これは小笠原藩と細川藩との密接な繋がりを後世に伝えるため、当時の市長同士のお声掛けで始められました。

お互いのお城祭りに合わせて毎年交互に会場を移し、小倉を小次郎軍、熊本を武蔵軍としてお城の広場で大勢の観衆を前に熱戦を繰り広げています。

もう一つは今回ご紹介する巖流島の決闘を顕彰する「武蔵・小次郎祭り」で、今年で六六回目を数えます。巖流島を眼下に見渡せる手向山は、武蔵の養子・伊織が藩主小笠原忠真公より拝領した場所で、宮本家

一〇月、那珂川町の「那珂川町青少年柔・剣道大会（四七回目）実施。
十一月、大野城市は「大野城市珠旭旗争奪大会（五五回目）開催。高校生と一般の個人・団体戦、シニアの部団体戦により実施。

二月、筑紫は「天神旗（四〇回目）・天神杯（二〇回目）少年大会開催。県下約一七〇団体が参加。なお、第一回天神杯優勝者は、昨年、女子の世界選手権と日本選手権の二冠に輝いた松本弥月選手でした。

同月、筑紫野市の「筑紫野大会（五九回目）。少年の部と高校・一般の部で開催。

近年、会場確保等々厳しい運営状況の中で、各大会が、長期にわたって開催されているのは、まさに、「伝統」の一語に尽きます。

新たな試みの三大会

新しい試みの大会も開催されています。「天拝少年錬成大会（九回目・三月）」は実行委員会主催で近郊五〇団体の参加で開催。春日光龍会は「光龍杯争奪チャンピオン選手権大会（二〇回目・五月）で個人戦実施。

筑紫地区中体連剣道専門部は、選手を小学校時代に剣道未経験者の剣道部員に限り、他の部員が審判や係員を行うという「共栄大会（二回目・一二月）」を実施。

それぞれ意義・特色ある大会で、伝統の中に新しい息吹を吹き込みつつ、さらに次の世代に伝えられ発展する事を祈念します。

筑豊連合地区剣道連盟

活動報告

嘉飯剣道連盟

事務局長 川村 正美

筑豊連合地区剣道連盟の平成二七年の主な活動を紹介させていただきます。

筑豊連合稽古会

今年度は田川剣連が担当し毎月第一火曜日に変更し実施しました。毎回三〇名程度の参加を得て意気盛んな稽古会になっています。しかし、参加は熟年層は多いのですが、若年層と女性の参加者が少なく、その参加が今後の課題です。

筑豊連合地区剣道講習会

七月五日、田川市船尾武道館で行いました。講師は瀬戸郁則七段と山本数利七段。出席者は八三名で日本剣道形を中心とした講師の解りやすい指導のもと、皆、熱心に受講しました。

筑豊地区対抗剣道大会

一〇月四日、福智町方城体育館で行いました。今回は四七回の大会となり、筑豊の三剣連対抗の熱戦が展開され、直轄剣道連盟が連覇を果たしました。試合終了後には合同稽古会を行い相互の交流が図られました。

筑豊地区年齢別剣道選手権大会

昨年度より開催され、今年が第二回目となり十一月一日に田川総合体育館にて開催されました。新たに六三歳以上の部を設け、成績は左記のとおりです。

女子の部

- 優勝 長岡いづみ（田川）
- 準優勝 佐藤博子（嘉飯）
- 三四歳以下の部
- 優勝 中藤昭信（田川）
- 準優勝 太田健心（田川）
- 四四歳以下三五歳以上の部
- 優勝 脇坂義信（嘉飯）
- 準優勝 松浦健之（田川）
- 五四歳以下四五歳以上の部
- 優勝 佐藤幸久（嘉飯）
- 準優勝 安永卓生（嘉飯）
- 六二歳以下五五歳以上の部
- 優勝 森 正伸（嘉飯）
- 準優勝 中島健次（嘉飯）
- 六三歳以上の部
- 優勝 深町正勝（嘉飯）
- 準優勝 一尾泰嗣（直轄）

本大会が地域剣道の活性化と剣道人口の拡大に繋がるように貢献し、永く続くことを願います。

また、嘉飯剣道連盟所属の馬場清治先生が、居合道において一〇月一七日にアクシオン福岡において行われた「第五〇回全日本居合道大会」において、七段の部で全国優勝されたことは、嘉飯剣道連盟にとっても大変名誉なことであり、今後も剣道と居合道を両立され、益々のご活躍を期待しています。

最後に、筑豊地区の剣道連盟の基礎を作っていたいた岩野隼太先生と新保晴久先生の訃報がありました。岩野先生は直轄剣道連盟の元会長であり直方・鞍手地区を中心に指導されていました。新保先生は嘉飯

代々の墓所があります。山頂の公園には武蔵没後九年目に伊織が建立した三メートルを超す巨大な石碑があり、武蔵の剣歴が刻まれています。

また、そのすぐ傍には、小説「佐々木小次郎」の著者村上天三氏により、「小次郎の眉涼しけれつばくらめ」の句が刻まれた小次郎の碑も建てられています。この場所で、毎年決闘のあった四月二三日に最も近い日曜日に、「武蔵・小次郎祭り」は開催されます。

当日は厳かな神事があり、献花・献茶などの後、小倉剣道連盟会員による日本剣道形・居合道・杖道、さらには武蔵が数々の決闘の中から編み出したといわれる「二天一流」の形の奉納演武が行われます。その後、小倉区内の小中学生による剣道の試合が始まるのですが、巖流島の決闘四〇〇周年の年（平成二四年）には、小倉を中心に九州・山口の二刀流の遣い手七人を招き、小倉剣連選出の七人との試合が行われました。試合会場から少し離れた所では、たくさんの露天が出没する中、様々な催しが行われ、たいへん賑やかなお祭りとなっております。

武蔵は巖流島の決闘の二二年後五〇歳の時に豊前小笠原藩に招かれ小倉に逗留し、五七歳で熊本に行くまでの七年間、小倉藩士に「二天流」のちの二天一流」を指南していたと言われています。現在、小倉剣道連盟

では古武部部を設立し、同好の士が二天一流を学んでいます。私も二代宗家・吉用清先生より免許皆伝を許され、部員とともにさらなる修練に励んでいます。武蔵ゆかりの小倉の地で、二天一流が再び多くの人々に学ばれることを願っています。

うきは市剣道連盟の活動について

理事長 物部 義則

うきは市剣道連盟の活動状況について紹介させていただきます。

まず、少年剣道について紹介します。うきは市剣道連盟には、山春道場・御幸道場・福島道場・江南剣心会の四つの道場があり、総勢八〇名の少年剣士たちが汗を流し稽古に励んでいます。各道場の稽古だけでなく月一回、合同稽古会を開催しています。この稽古会には、数多くの指導者も集まり、充実して稽古が行われています。

市内の少年剣士の意欲の向上、技能の向上等を図るため剣道大会を開催しています。この大会は剣友慰霊祭剣道大会と称し、共にうきは市の剣道の発展に貢献してきた剣道仲間と亡くなられた方を慰霊する大会でもあります。

少年剣道の指導において、全剣連が指導されている剣道の理念「剣道は、剣の理法の修練による、人間形成の道である」、このことを少年剣

士たちにわかりやすく指導するよう、各道場長に伝達し、徹底を図るようお願いしているところです。

次に、一般剣道の活動について紹介します。日々の稽古については、各道場において行っていますが、本剣連では毎月第三水曜日を合同稽古会と定め、ほとんどの会員がうきは市総合体育館武道場において稽古に励んでいます。

稽古の成果を發揮するため、市内の大会（少年剣道で紹介しました剣友慰霊祭剣道大会）にも一般の部を設け、チームを組み試合を行っています。

また、市外の各大会にも若い年齢層が中心となり、積極的に参加しています。特に八女市上陽町で毎年開催される大会には、二チーム編成して参加しています。

さらに、高齢者層も「ねんりんスポーツ剣道交流大会」に積極的に参加しています。昨年度は、個人戦だけでなく、団体戦にも参加しました。平成二五年度の筑後連合地区郡市剣道大会では、六段以上個人の部において、出利葉 操氏が優勝しています。過去五年間における昇段審査では七段に二名、六段に四名の方が合格を果たしています。これも、日頃からうきは市剣連会員が一致協力し、稽古に励んでいる成果ではないかと喜んでいます。

杖道通信

杖道部会長 光廣 勝人

平成二七年度第一回目の六段・七段審査会が八月七日(金)、愛媛県松山市の武道館で開催され、全国から六段三二名が受審し八名が合格、(合格率25%)、七段二二名が受審し五名が合格(同22%)でした。

今回福岡県から六段、四名が受審し合格者無し。七段は一名が受審し、越智氏が合格されました。審査は、古流もどきでは合格しませんが、今回、今一步の方は全剣連杖道の解説書を熟読し、次に繋げていただきたい。合格された方はこれから杖道部での活躍と指導者としての手腕を期待するところです。

又審査終了後の八・九日の二日間、同じ武道館で地区講習会が開催され、全国から四七一名が受講。福岡県からも二〇名の参加者があり、福岡県杖道部としての面目が立ちました。

八月二三日(日)、世界文化遺産の広島県・厳島神社に於いて第五回親と子の武道大会が開催され、全国から二七団体が参加しました。

第五〇回 全日本居合道大会報告

居合道部理事

居合道八段 小田 信秋

標記大会が滞りなく盛装裏に終わりましたこと、先ずは報告と御礼を申し上げます。五〇回という節目の大会に際し、福岡県剣道連盟役員事務局の先生方のご尽力には本当に感謝しています。

大会当日におきましても上田会長、宮川副会長、神副会長、牧瀬専務理事、中園事務局長などのご列席賜わり、お忙しい中を最後まで熱心に観戦して頂いたことも励みとなつて、福岡県の選手団は、三年前から足掛け四年になる強化稽古の成果を発揮し、みごと団体優勝の栄誉を勝ち取る事が出来ました。

監督・小田 信秋

七段・馬場 清治 (自営業)

六段・末次 輝 (病院職員)

五段・井手烈太郎 (警備員)

五段の部では、各県の若手が台頭する「見る側」にとっては興味深いエリアになりますが、昨年、福島での大会で準優勝であった井手選手は、終始、落ち着いて自分の技を抜き切りしました。

体格に合った豪快さと緻密な所作

した。

我々の神道夢想流杖術の演武には福岡から六名、大阪から四名が参加し、無事奉納演武を致しました。

九月六日(日)、久留米市勤労青少年ホールに於いて、二年に一度の九州杖道連盟主催の九州杖道大会が開かれました。久留米市副市長列席の下、久留米市剣道連盟の小柳会長、小川事務局長、久留米観光コンベンション国際交流協会、久留米市の協力の下、地元杖道部員の協力を得て盛大に開催されました。全剣連杖道が主流の現在、四段以上の高段者は古流を使う大会で、日頃の稽古の成果を充分発揮され、神道夢想流杖術の伝承に役立つ大会になったのではないかと、と自負するところです。皆様の協力の下、盛装裏に終える事が出来ました。この大会に参加された皆様に感謝し、このパワーを次の全日本大会に繋げたいと思います。

一〇月一日(日)、神戸市体育館に於いて、全日本剣道連盟主催の全日本杖道大会が開催されました。六段の末次選手は、昨年、二回戦で苦渋を飲んだ経験を生かし、力みのない、それでいて伸びやかに力強い居合を一年間みっちり取り組んできました。

若さゆえの肩に力みが出る欠点を克服して、剣道で培った丹田での攻めが利いた試合を存分に見せ、栄えある優勝を勝ち取り九州居合道の祖である【末次流】ここに有りを全国に知らしめる事が出来ました。

七段の部では、馬場選手が順調にまた確実に試合を進め、決勝では愛媛代表の宇都宮 聡選手との対決となりました。馬場選手は夢想神伝流であり、一方の宇都宮選手は直伝英信流と、流派の違ったお互いに気魄のこもった演武を展開しました。固唾を呑んで審判の判定を待ちました。気が剣体の一致した馬場選手が三〇で勝利し、昨年の決勝戦敗退の雪辱を晴らす事が出来ました。

七段という試合での最高峰優勝は、福岡県勢としては第二八回大会井手現範士の優勝以来、実に二二年ぶりの栄冠を手にする事となりました。また、五段、六段、七段の全試合、一回戦から決勝戦までオール

れ、福岡県からは初段から七段まで四八名の選手が参加し、初段二段、四段、六段が三回戦まで、五段の部で四回戦まで、七段の部で準決勝まででした。杖道部の反省として、もつと解説書を熟読し、全剣連杖道の業を磨いていただきたいと思えます。

平成二八年一月九日(土)、太宰府市・竈門神社の奉納稽古始めが行われました。前年末に神社のご厚意により、夢想権之助神社の前に立派な演武場の敷石を設置して頂きました。これからも、一月の奉納以外は、毎月二〇日以降の土曜日に流祖に対して皆様の月間活動報告を兼ねた奉納演武を継続しますので、出来るだけ多くの会員の参加をお願いするところです。

平成二七年度最後の六段・七段の審査会並びに地区講習会が一月一五日(金)から一七日(日)まで、東京・江戸川スポーツセンターで開催されました。福岡県からは七段二名、六段四名、が受審。全国から、六段、四七名、七段三四名が受審し、六段一三名が合格(合格率27%)、七段四名が合格、(同

三〇)の完全優勝という快挙は過去の大会では例のない真の日本一と言えると思えます。

審判長の小倉範士からは、「福岡は凄い。選手も日本一だが、大会運営がすばらしい。余程、事前取り組み、準備を重ねてきたのだろうが、これも日本一」とのお褒めの言葉を頂きました。

事実、選手団も役員、係員の熱意行動、気概に刺激を受けていたことと思えます。

福岡県全員で勝ち取った【日本一】だと自負しています。また居合をされていない剣道の先生方、杖道の先生方が、観覧席のあちこちに見られたことにたいし、一同に成り代わりまして厚く御礼申し上げます。

しかしながら、喜んでばかりは居れません。実力拮抗、薄氷での勝負であり、再試合をして、全く同じような結果が出せるのか・・・

それを考えると今後の選手育成・強化のあり方が見えてきます。

切れ目のない選手層を如何に

12%) 福岡県からは六段に高嶋久家氏が合格しましたが、七段は残念ながら合格者無し。

合格された方はこれから杖道部での活躍と併せて地域の指導者としての手腕を期待しているところです。一六・一七日の地区講習会には全国から二日間間で三九七名、うち福岡県から一六名の参加がありました。今回の審査会は、地区講習会と共に八月二六日、山形県天童市で開催される予定です。



▲竈門神社での奉納稽古始めの参加者

作りあげるかということに尽きます。五段になってから、六段・七段になってから全日本大会に向けての取り組みでは遅すぎます。先ずは、今の戦力を維持しつつ、三段・四段の有力人材を招集し、次世代の選手として鍛錬していくことが肝要です。

指導者の一員として《雄県福岡》の名を維持継続するためにも、居合道部の技術向上と育成に全力を尽くしていく所存です。



▲六段 末次選手



▲五段 井手選手



▲七段 馬場選手

日本刀（斬試を行う）

居合道六段 村瀬 守

刀といえば日本刀と思うのが一般的な答えでしょう。

刀は武器で、斬ることを目的として作り、美術工芸品ではありませんでした。

試し斬りは、「武道は、畳の上の水練ではないけない」という教えから始めました。昨今の居合道では形が重視されるが、大切なことは、正しい刃筋（打込みから抜けるまで、真直ぐ）で、斬り通す刀法が大事だと思っ

現在、ともすれば美術品としてのみ関心がもたれていますが、刀本来の目的を考え、実際に使う立場から、折れず・曲がらず・よく切れる刀とは、どのようなものなのか？ 形・長さ・身幅・鎧（しのぎ）・厚さなど斬れる刀の条件はどういう事か調べてみました。

長さ 用いる人の肉体的な条件に左右されるが、大方二尺一寸から三寸くらいが最適。切るのは物打ちの所。長すぎると使っていて、重くて大変です。

反り（そり） 五分から九分まででしょう。古い時代は、騎馬戦です

が、その後、歩兵戦になって次第に少なくなりまし

ものがいいと思います。目貫（めぬき） 装飾的なものでなく、重要な役割を持っています。

身幅・鎧 刀の重量・弾力性は、非常に切れ味を左右します。身幅は

燂刃 刀工が最も苦心するところ。焼刃が深く大きな乱れがある刀は、深い乱れのところから折れる危険性があり、全体にもろいよう

茎又は中心（なかご） 愛刀家はさほど問題にしないでしょうが、実際に使う者にとつては非常に大切で

燂刃 刀工が最も苦心するところ。焼刃が深く大きな乱れがある刀は、深い乱れのところから折れる危険性があり、全体にもろいよう

柄 材質は、普通ホウの木ですが、ガタつきやすいので、斬試に使うなら、櫂もあるが、桜がいい。柄の形は、ある程度丸味があつて、持った時、手の内にピタッと決まる感じの



全体に、ボヤツとしたものがよく斬れるようです。鍛（きたえ） 刀の基本といわれ、鍛の悪い刀は、切れ味が悪く、折れたり、曲つたりしやすい。平地は、いろいろあるが、技法以前の問題として、よく鍛錬してあるかどうか、大切です。刀の、斬れる切れぬは、枯竹を斬つてみるのが一番。刃がまくれなければ大丈夫。試し斬りは、斬る物体に対する刃の角度が一番重要

知っておきたい

スポーツ選手の食事と栄養

久留米大学

健康スポーツ科学センター

管理栄養士、食育インストラクター

木村 香苗

今回は、五大栄養素のひとつであるミネラルの中で、特に意識して摂取を心がけたい鉄についてお話しします。

鉄不足が続くと貧血を引き起こすことはよく知られていますが、ス

スポーツ選手の健康管理において、貧血対策は大きな課題のひとつです。一般の人に比べて、スポーツ選手には貧血が起こりやすい条件が重なっており、貧血によるパフォーマンスの低下も報告されています。スポーツ選手の貧血は特に「スポーツ貧血」と呼ばれています。

血液は、白血球、赤血球、血小板血漿などから構成され、それぞれ役割があります。赤血球の大きな役割が酸素運搬です。ヘムという鉄を含む色素とグロビンというたんぱく質で構成されている赤血球の色素がヘモグロビンで、このヘモグロビンが酸素と結合して全身へ酸素を運搬しています。貧血になり筋肉など全身各組織への酸素運搬能力が低下すると、持久力の低下を招く危険性があります。

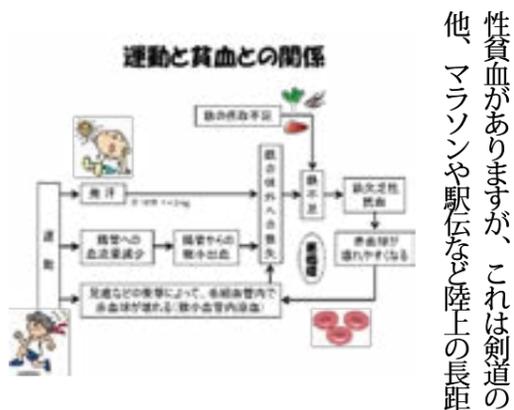
貧血は、一般に血液検査のヘモグロビン濃度で診断されますが、その他に血清鉄や貯蔵鉄（フェリチン）も重要な指標となります。体内には、ヘモグロビンの材料となる鉄が、血清鉄として血液中に、フェリチンとして臓器に貯蔵されており、ヘモグロビンは食事から供給される鉄の他、これらの貯蔵されている鉄を材料として作られます。食事からの鉄供給が不足すると、最初にフェリチ

ンが減少し、続いて血清鉄、さらに鉄不足が続くとヘモグロビンが減少して貧血と診断されますが、スポーツ選手ではフェリチンの減少時点で競技力に影響が出るといわれています。血液検査でヘモグロビン濃度が基準値でも油断は禁物です。一般的な健康診断ではヘモグロビンしか測定しないことが多いですが、潜在的な鉄欠乏が疑われる場合はフェリチンや血清鉄も測定すると良いでしょう。

貧血にはいくつか種類があります。最も多いのは鉄欠乏性貧血です。図1に運動と貧血との関係を示していますが、スポーツ選手の場合、一般の人に比べて発汗による鉄の損失も多くあります。汗に含まれるミネラルは、本来汗腺で分泌されてから皮膚の表面に出るまでの間に再吸収され

ますが、急激に多量の汗をかくと再吸収が追いつかず、汗とともに体外へ排出されてしまいます。汗1ℓ中には約0.5mgの鉄が含まれていますが、防具をつけて競技を行う剣道では、発汗量も多いため汗とともに損失する鉄の量も多いと考えられます。

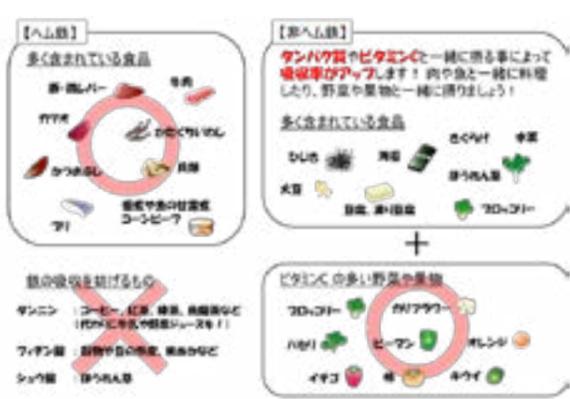
また、繰り返し足裏へ衝撃が加わることによって足裏の毛細血管で赤血球が壊れやすくなって起こる溶血



性貧血がありますが、これは剣道の他、マラソンや駅伝など陸上の長距離

このように、剣道では貧血が起こり易い条件が重なっているため、毎日の食事からしっかりと鉄分を供給し、貧血を予防しましょう。

食品中に含まれる鉄には、肉類（特にレバーや赤身肉）や魚介類など動物性食品に多く含まれるヘム鉄と、海藻や大豆製品、野菜、果物など植物性食品に多く含まれる非ヘム鉄があり、体内への吸収率が大きく異なります。ヘム鉄の吸収率は10～30%であるのに対して非ヘム鉄は2～10%ととても低いのです。しかし、



鉄の吸収率はビタミンCやたんぱく質を同時に摂取することによって上がるので、ビタミンCの豊富な野菜や果物を組み合わせた食事をする効果的です。一方、お茶類の渋み成分であるタンニンや、加工されていない全粒穀物類に含まれているフィチン酸などは、鉄と結合して吸収を阻害してしまうので注意が必要です。

ひどくなると日常生活にも影響を及ぼす貧血ですが、潜在的な鉄欠乏状態では自覚症状がほとんどありません。自覚症状が現れる前に、毎日の食事からしっかりと鉄分を摂取するよう心がけましょう。

四・五段合格者

杖道四段（六月七日）
村瀬佳史

杖道五段（六月七日）
シヨコ・プリヤント

石川裕章

小川直人 山中征生 小川千賀子

剣道四段（八月四日）

佐多隼人 酒見将広 平川智樹
古木洋毅 牧 智 山内寿人
堺 毅 大坪未来 古賀ちさと

剣道五段（八月四日）

澤口和真 巢立啓太 勢田征吾
川添竜一 江口勝則 阿部裕理恵
高尾尚吾 柳樂喜代美

剣道四段（八月九日）

萱嶋晃生 新井 武 佐々木将登
原田倭綺 佐藤 翼 井上翔太
肘井丈典 島田童齊 古野和希
伊豆秀則 霧林大我 徳永健輔
藤原翔太 高橋佑爾 榎 眞吾
高城侑杜 肘井雅直 田村龍太
尾知 瞭 安永篤生 岡本大輝
松井友亮 田中尊也 今林芳仁
堀翔一朗 川路将樹 古元蓮次
浅田隼人 山下将平 内村隆之介

寺山朋徳 後藤亮介 徳瀬敦将

荒木竜晴 南島伸哉 木村駿介

木野保徳 高城聖也 小川雄也

池田直矢 橋本翔馬 徳田祐貴

泉 富葵 平田嘉則 津隈洋人

竹下隼人 金丸祐輔 平川成治郎

兒玉航大 財津拓矢 本村知也

崎野省悟 宮崎春樹 財津健佑

岩下 悟 中野功光 猿田聖二

山口健一 奥田善明 内山田和也

田中泰成 高橋堅輔 鹿兒島伸一

古川元一 森山貴光 田之上泰三

利根大介 高橋大治 川内義文

奥永和幸 箴島 真 山崎寛治

石井 剛 藤丸幹修 堺 等

光岡来蔵 坪根正樹 泉 眞人

草場僚子 山口朱里 永留未来

杉巴瑠加 松尾由佳 小松未沙貴

新郷美紀 仁田原鈴 竹林由貴

長田知子 藤美奈子 矢山真由美

五嶋正美

剣道五段（八月九日）

錦戸聖周 西雄一郎 立野龍太朗
藤木健司 楠元裕太 坂尾真太郎
田邊佑斗 越原祥光 鳥尾聖也
柳井優和 占部大彦 鶴戸成将
加冷有児 篠原暁夫 中村和馬
徳安浩一 梶原勝彦 齊藤 太
大野 寛 渡邊俊浩 森村俊次

巧網真美 小島海月 久保有希奈
菊川理江 只隈尚弓 古野真千子
石橋由衣加

剣道四段（九月八日）

山手優輔 松下雅俊 白石和弘
吉田あかね

居合道四段（九月二日）

本田寿明 安本誠一 美田智和
高井正敏 吉田武久 古賀綾子
相馬仁美

居合道五段（九月二日）

村上博亮 藤吉則泰 佐伯伊勢雄
横山一成

杖道四段（二月八日）

山本克記 中島邦彦 中村紀子
江川隆一郎 甲斐田裕文

杖道五段（二月八日）

瓜生志慶 古川詳翁 藤鳥征一郎
菅原道之 江藤ルミ子

編集後記

三月は卒業の季節。卒業という一つの節目を迎えられる皆様、おめでとうございます。また、異動や転勤のお話があったり、それに伴い引越しの準備をしたりといった季節でもあります。新しい世界に胸の高まりを感じながらも、不安に思うこともあると思います。しかし、どの道に進んでも、剣道が続けていく限り、我々には「剣縁」という強力な武器がついてきます。

「剣縁」とは不思議なもので、初めて稽古をお願いした方と稽古の後や第二道場で話してみると、そのうち必ず誰か共通の知り合いがいることに気付きます。その知り合いの方とのお互いの関わりを話していくことが、それぞれの自己紹介となり、お互いをよく知るようになっていきます。これまでの剣縁が新たな剣縁を生み出し、新しい世界に馴染んでいく手助けをしてくれます。この「剣脈」も皆様の剣縁がより豊かになる一つの情報源になれば幸いです。皆様の新しい旅立ちに、「ますます頑張ってください」と心からエールを送りたいと思います。（本多・記）

編集委員

吉岡、吉谷、浅野、中附、小川、本多、高津